

■コメント

1 手足口病

定点当たり0.71人と、増加傾向です。口の中の粘膜や手足などに水疱性の発疹がでるウイルス性の疾患で、乳幼児を中心に、夏季に流行がみられます。感染経路は、飛沫感染、接触感染、糞口感染です。手洗いの励行、オムツの適切な処理、タオルの共用を避けるなど、感染予防対策を心がけましょう。

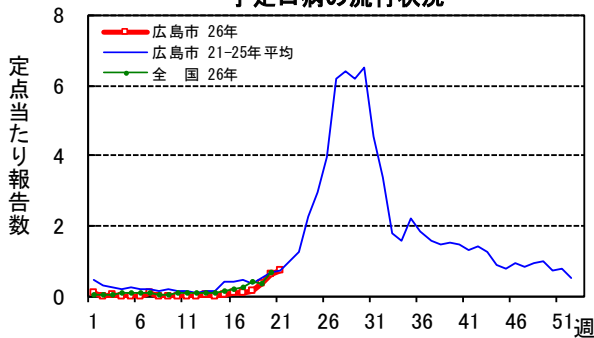
2 ヘルパンギーナ

定点当たり0.86人の報告がありました。例年と比べて多い状況が続いており、注意が必要です。手洗いの励行、オムツの適切な処理など、感染予防対策を心がけましょう。

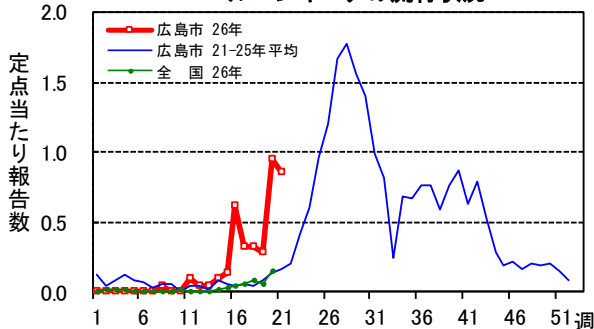
3 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

今年初めての報告がありました。SFTSウイルスを保有するマダニに刺されることで感染するほか、感染している人や動物の血液・体液との接触によって感染することもあります。感染予防のため、山や草むらに入るときは、長袖・長ズボンなどを着用して皮膚の露出を少なくし、マダニの付着を防ぎましょう。また、野生動物との接触を避け、ペットのマダニ対策を心がけましょう。

手足口病の流行状況



ヘルパンギーナの流行状況



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
ARI	急性呼吸器感染症(ARI)	1626	47.82			⇒	小児科	突発性発しん	8	0.38	0.31		
	インフルエンザ	-	-	0.71				ヘルパンギーナ	18	0.86	0.16		↘
	新型コロナウイルス(COVID-19)	22	0.65			↘		流行性耳下腺炎	1	0.05	0.04		
小児科	RSウイルス感染症	6	0.29	0.97			眼科	急性出血性結膜炎	-	-	0.03		
	咽頭結膜熱	6	0.29	0.67				流行性角結膜炎	4	0.50	0.58		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	54	2.57	2.58		⇒	基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	感染性胃腸炎	108	5.14	6.27		↘		無菌性髄膜炎	-	-	-		
	水痘	4	0.19	0.32				マイコプラズマ肺炎	2	0.33	0.19		
	手足口病	15	0.71	0.74		↘		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	伝染性紅斑	1	0.05	0.72				感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.26		

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	⇔		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

急性呼吸器感染症(ARI)定点数(内科・小児科)	34
小児科定点数	21
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	4	55	10歳代・推定感染地域: 国外、20歳代・推定感染地域: 国外、70歳代、90歳代
4	重症熱性血小板減少症候群	1	1	60歳代
5	梅毒	2	42	10歳代、30歳代
5	百日咳	1	23	10歳代

